

八戸工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	歴史B(0214)	
科目基礎情報							
科目番号		2Z04		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位A: 1		
開設学科		産業システム工学科環境都市・建築デザインコース		対象学年	2		
開設期		秋学期(3rd-Q)		週時間数	3rd-Q:2		
教科書/教材		川手圭一他著『明解歴史総合』（帝国書院）、『明解歴史総合図説シンフォニア』（帝国書院）、『歴史総合ノート』（帝国書院）					
担当教員		佐伯 彩					
到達目標							
・ヨーロッパ世界とアジア世界との交流の歴史についての専門用語や知識を習得する。 ・現代の国際情勢の変遷を理解し問いを表現することができる。 ・現代の国際社会について自ら問いを表現し、主体的に分析し、かつ、説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		ヨーロッパ世界とアジア世界との交流の歴史についての専門用語や知識を理解し、説明することができる。		ヨーロッパ世界とアジア世界との交流の歴史についての専門用語や知識を理解できる。		ヨーロッパ世界とアジア世界との交流についての専門用語や知識を理解できない。	
評価項目2		国際情勢の変遷について理解し、問いを表現することができる。		国際情勢の変遷について理解できる。		国際情勢の変遷について理解できない。	
評価項目3		現代の国際社会について自ら問いを表現し、主体的に分析し、かつ、説明することができる。		現代の国際社会について自ら問いを表現し、主体的に分析し、かつ、端的に説明することができる。		現代の国際社会について自ら問いを表現し、主体的に分析することも、説明することもできない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP1 ◎ ディプロマポリシー DP5 ○ 地域志向 ○							
教育方法等							
概要		【開講学期】秋学期週2時間 本授業では、第二次世界大戦以降の現代の日本と世界の歴史をさまざまな諸資料を用いて多角的に理解・考察する。第二次世界大戦以降、歴史Aで確認してきた近代化・大衆化の流れに、更にグローバル化、すなわち、世界の一体化がより急速に進展する。本授業では、そうした第二次世界大戦以降の世界秩序の形成、そして、現在においても各地で生じている地域紛争の歴史的背景をさまざまな歴史資料を読み、データを分析することにより問題の本質をより深く理解する力を養う。 本授業ではグループワーキングを行う。グループワーキングをつうじて、諸々の社会的技能を育成する。					
授業の進め方・方法		授業はアクティヴ・ラーニングの手法を基本として授業を実施する。授業の理解度に応じて授業内容を変更する可能性もある。 ・教科書・資料集・授業プリントを用いる。予習・復習として『明解歴史総合ノート』を使用する。また、適宜オンラインでの動画配信も行う。 ・総合評価は日々の授業課題(10%)とレポート(30%)に取り組みつつ、到達度試験（60%）で評価する。 ・総合評価を100点満点とし、60点以上を合格とする。					
注意点		・受講者には、能動的かつ積極的に授業に参加しつつ、授業中に自信の社会への理解や関心を表現することを強く求める。 ・20世紀の歴史は、「非人道性」や「人間社会の暗部」についても垣間見ざるを得ない。授業で用いる資料の選別については慎重に取り扱うが、心理的な負荷がかかるものも多いのであらかじめ留意しておくこと。 ・国際社会の情勢や現在の我々の社会状況への関心を常に持つておくこと。理系学問との関係も絶えず念頭に置きつつ、授業に意欲的に参加すること。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・大衆化と私たち		授業に臨む上での注意事項並びに授業の概要について理解する。 第二次世界大戦の戦後秩序がどのように構築されたのかを理解する。		
		2週	グローバル化と私たち①		戦後の日本の復興について理解する。		
		3週	グローバル化と私たち②		戦後の国際社会の状況について理解する。		
		4週	グローバル化と私たち③		戦後の日本を含むアジア諸国の経済発展について理解する。		
		5週	グローバル化と私たち④		冷戦終結後の世界の状況について理解する。		
		6週	グローバル化と私たち⑤		冷戦終結後の世界の状況について理解する。		
		7週	グローバル化と私たち⑥		冷戦終結後の世界の状況について理解する。		
		8週	到達度試験 (答案返却とまとめ)		答案返却とまとめ		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	後2	
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	4	後2	
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	後2,後3,後4,後5	

				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	後6,後7
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	4	後2,後3,後4,後5
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	2	後1
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	後2,後3,後4,後6,後7
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	後6,後7

評価割合

	授業課題	レポート	到達度試験	合計
総合評価割合	10	30	60	100
基礎的能力	10	30	60	100